

翔

2009 February No.196

百万石蝶談会



2005年石川県のアサギマダラマーキング概要

松 井 正 人

2005年の石川県におけるアサギマダラのマーキング状況を集計した。標識情報は月別場所別に標識頭数をまとめ、標識者情報は「あいうえお」順とし、再捕獲情報は再捕獲日順に並べた。

5月～6月の海岸マーキングでは、林 宏初さんの定点観測が始まり、珠洲市では北上してきた個体が初めて再捕獲された。9月の宝達山では、「山の龍宮城」の橘 英子さんらを中心に宇野弘子さんらも参加してマーキングが行われ、標識数は1,000頭を越し、宝達小学校児童がマーキングした個体が初めて再捕獲された。また、手取川ダム周辺の白山市荒谷や瀬戸では、中村明男さんや平松新一さんらが中心となってマーキングが始まった。

一方、これまで7～8月に盛んにマーキングが行われた鉢伏山は環境の変化から飛来がほとんど無くなり、舳倉島は分校の休校によって計画していたマーキングができなくなった。

■ 2005年標識情報（標識数：1673頭）

	標 識 地	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	計
1	珠洲市鉢ヶ崎	3	3					6
2	珠洲市川浦海岸		5					5
3	珠洲市高屋海岸		5					5
4	珠洲市馬縹海岸		6					6
5	珠洲市清水海岸		1					1
6	珠洲市仁江中田浜	1	2					3
7	輪島市宝立山				68	30		98
8	輪島市大川浜		2					2
9	輪島市袖ヶ浜	10	44					54
10	輪島市深見一乗	1						1
11	輪島市高洲山					5		5
12	輪島市鉢伏山			16				16
13	輪島市門前町深見海岸		1					1
14	輪島市門前町鹿磯海岸		3					3
15	志賀町鹿頭海岸	2	6					8
16	志賀町赤崎海岸		2					2
17	志賀町大島海岸		1					1
18	志賀町甘田海岸	3	4					7
19	羽咋市一宮海岸	2	1					3
20	宝達志水町宝達山				2	1,043		1,045
	能 登 計	22	86	16	70	1,078	0	1,272

■2005年再捕獲情報（再捕獲数：15頭）

番号	標 識	性別	標識日	標識場所	標 識 者	再捕獲日	再捕獲地	再捕獲者	移動距離	日 数
1	ヒメ 6/3 SRS1498	♂	6/4	大分県 東国東郡 姫島	栗田昌裕	6/18	石川県 珠洲市 高屋海岸	松井正人	659km	14日
2	石ひよし 074	♂	8/5	石川県 輪島市 宝立山	日吉芳朗	8/15	長野県 木曽郡 御岳ロープウェイ	喜多隆三	170km	10日
3	あづみの1 7/21 SBCイクタ	♂	7/21	長野県 堀金村 あづみの公園	生田明子	9/10	石川県 宝達志水町 宝達山	松木隆也	110km	51日
4	いおう IMM 181	♂	7/23	富山県 南砺市 医王山	松井正人	9/18	石川県 宝達志水町 宝達山	樋口陽平	30km	57日
5	日光 8.17 ハセ川	♂	8/17	栃木県 日光市 湯元スキー場	長谷川順一	9/23	石川県 宝達志水町 宝達山	松井正人	230km	37日
6	マル200 98YT	♂	9/8	群馬県 片品村 小川の丸沼	高橋洋一	10/1	石川県 加賀市 刈安山	松井正人	270km	23日
7	白山 9/18 YUI 044		9/18	石川県 白山市 荒谷林道	平松夕衣	10/9	三重県 亀山市 野登山中腹	河本 実	140km	21日
8	ほうだつ 9/15 まつき	♂	9/15	石川県 宝達志水町 宝達山	松木隆也	10/21	京都市 西京区 大原野善峯寺	金田 忍	230km	36日
9	ほうだつ 9/19 こうじ8	♀	9/19	石川県 宝達志水町 宝達山	堀 孝治	10/22	徳島県 鳴門市 妙見山	天野 大	350km	33日
10	ほうだつ 9/12 なおき2	♂	9/12	石川県 宝達志水町 宝達山	湯上直貴	10/22	高知県 大月町 大堂(旧道)	橋越清一	580km	40日
11	かりやす IMM 631	♂	10/1	石川県 加賀市 刈安山	松井正人	10/24	京都市 西京区 大原野善峯寺	金田 忍	160km	23日
12	ほうたつ 9/12 みやこ1	♂	9/12	石川県 宝達志水町 宝達山	長田美也子	10/27	高知県 室戸市 室戸岬	多田弘一	460km	45日
13	ほうだつ IMM 458	♂	9/17	石川県 宝達志水町 宝達山	松井正人	11/2	沖縄県 与那国町 宇良部岳	西田悦造	1,900km	46日
14	白山 9/18 SAS 03	♀	9/18	石川県 白山市 荒谷林道	笹山晶子	11/23	鹿児島県 喜界島 滝川林道	福島 誠	1,080km	66日
15	ほうだつ 050918 ケイジ	♂	9/18	石川県 宝達志水町 宝達山	山前圭司	11/27	鹿児島県 喜界島 上嘉鉄	福島 誠	1,140km	70日

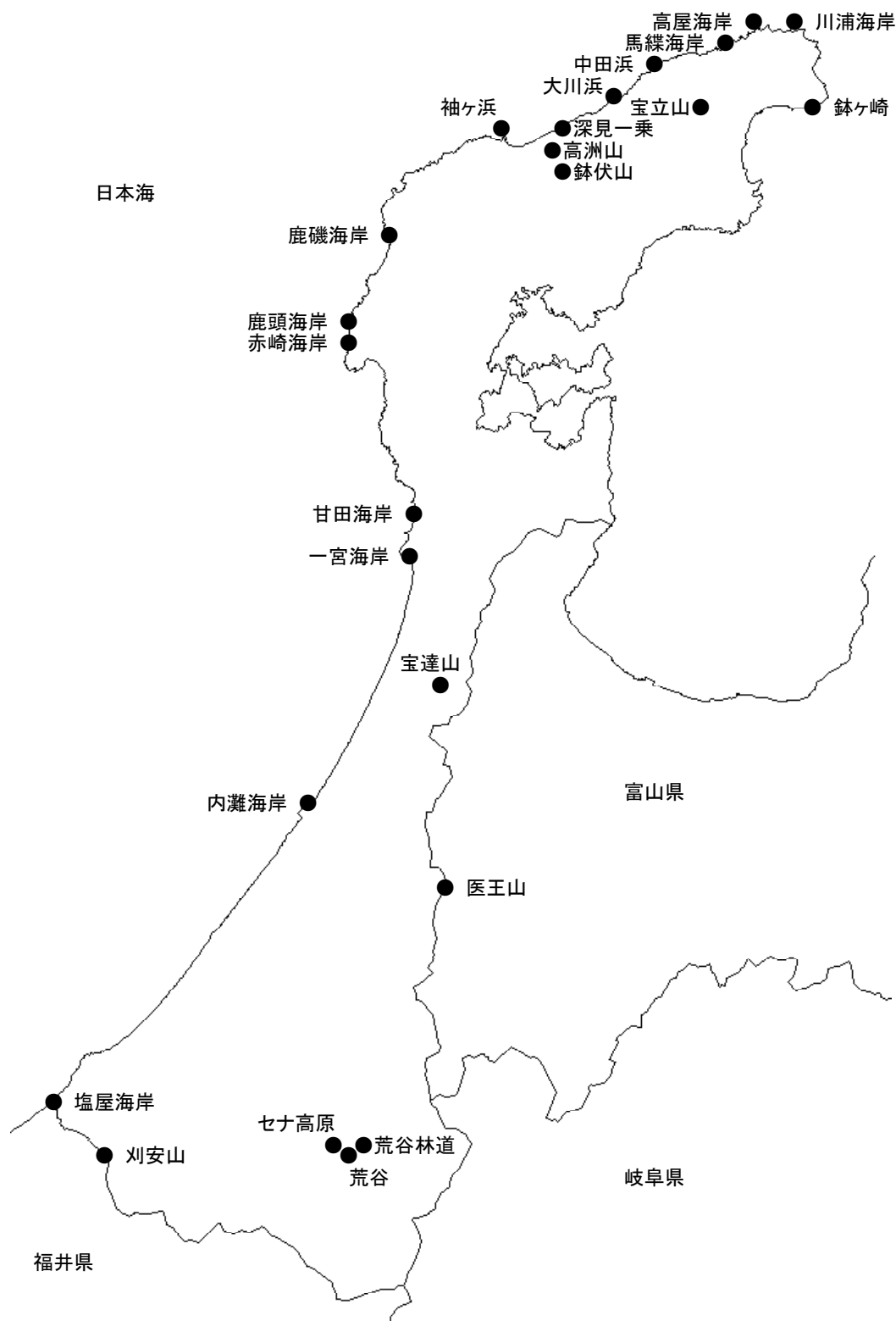


図-1. 2005年の主な標識地点

《まつい まさと〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

Sashida Collection は全部で何頭あるのか？

～日吉さんはスゴイ！～

指 田 春 喜

「翔」No.193 (Aug., 2008)「会員の動き・しゃばの動き」において、日吉氏所蔵標本がこの7月に9,550頭になったことが報じられた(年末までには1万頭を超えた由である)。これに対して、No.194 (Oct., 2008)のそれでは、当方は最近、「昆虫関係の雑誌を読まない。虫屋と接しない。標本を眺めない。」の「ないない3拍子」で老け込んでいると言われてしまった。

虫(蝶)屋同士の会話の中で、所有の標本の量を論ずるとき、「大体何箱」とかドイツ箱の数でいう場合が多い。しかしながらこの時、所有の(採集した)種類数はしっかり認識していても、自己の所有(展翅)標本の数を正確に把握できている虫屋は、案外少ないものである。その意味においても、日吉氏は標本数が1万頭に迫る(超えた)ということより、その数をいつも正確に把握していることがスゴイのである。

当方は、「翔」No.119 (Apr., 1996)、および「多摩虫」42号(2003年2月)にその時点でのギフチョウの所蔵標本のデータをまとめ、その後、未採集4県(山梨、三重、岡山、島根)で採集し、26都府県制覇をした結果を「昆虫と自然」(42(10), 2007)にまとめた。しかしながら、日本産はもとより外国産蝶類を含めた展翅標本の数は、まったく把握できてなかった。およそ1万5千から2万頭ぐらいいはあると思っていたので、結論を先に記すと、数千のズレがあった。だいたい、自分の持っている標本数をかなり多く思い込んで入る輩が多いようである。一度、会員諸氏も正確に数えてみては如何なものであろうか。因みに当方の現在の標本箱数は207箱であり、収容できる(標本棚に収容可能な)箱の数は、残り23である。この数が多いか少ないかは、家の建築当初から当方とカミサンの意見が決定的に異なっており、現在でもこの溝は深まることはあっても狭まることはないのである(本項は、この点につき論ずるものではないのでこれ以上は記さない)。

この(2008年から2009年にかけて)年末年始は9連休であった。世間でもそうであったところが多いようである。海外脱出するには、休みが短過ぎる。また、円高とは言え、まだ航空運賃は下がりきってないし、適当な採集地がそう直ぐには思いつかない。そこで、冒頭のことを意識してという訳だけではないが、この年末年始休みを利用して、我が家の展翅標本の数を数えてみた。「ないない3拍子」の一つを解決するべく、蝶への思いを高めるには、自分の標本をじっくり見ることが一番の“特効薬”と思ったからである。当初、丸1日あれば、簡単に数えきるだろうと高をくくっていたら、それほど簡単ではなかった。異なる科が混在する箱が複数あったり、標本がきちんと一列に整然と並んでないとき、まず、これらを解決しないと作業効率は上がらない。なお、参考までに日本産のみ、その内訳を記した。東南アジア産(一部のシジミ、セセリに未同定があるが)は良いとしても、

中南米産では種の同定はおろか、何科に属するのかその同定に自信がないものがあるので、科の内訳は省いた。

・ 日本産	5,775頭
アゲハチョウ科 (ギフチョウ1209頭を含む)	1,702頭
シロチョウ科	461頭
マダラチョウ・テングチョウ・ウラギンシジミチョウ科	160頭
ジャノメチョウ科	540頭
タテハチョウ科	847頭
シジミチョウ科	1,741頭
セセリチョウ科	324頭
・ 台湾産 (1,601頭は自己採集品)	1,604頭
・ 東南アジア産	4,943頭
・ 中南米産 (ペルー、メキシコ、ブラジル)	1,277頭
・ 北米産	262頭
・ 欧州産 (アフリカ産4頭を含む)	47頭
・ トリパネアゲハ・パルナシウスなど (ヨナグニサンなど蛾数頭を含む)	53頭
・ 中国・韓国・ロシア産ヒメギフなど	43頭
合計	14,004頭

こうしてまとめてみると、改めていくつかのことがわかる。

- 1) 1960年以来、休むことなく蝶の採集をしているが(当然、その年により採集頻度に違いはある)、国内産の標本がたったの5,775頭と、日吉氏の半分ほどしかない。しかも、その2割はギフチョウである。
- 2) マレーシア(ボルネオ)、ラオス、インドネシア、ヴェトナム、ミャンマー、インドとあれだけ出かけた(35回を超える)のに、東南アジア産の標本が5千に満たない。ほとんど全部が自己採集・展翅品であるので、しょうがないかもしれないが、それにしてもあまりの少なさにがっかりさせられた。
- 3) 台湾での採集経験は3回しかないが(しかも8月のみ、延べ31日)、1,600頭を超えるのはある程度評価できる。
- 4) 中南米には、ともに1回ずつしか行ったことはないが(ブラジルは完全に仕事である)、ペルーでの正味4日間では1,000頭以上が採集でき、その全てを3クールで展翅したことは満足している。当方では、一度に最大約500頭の展翅が可能である。
- 5) 北米での本格的な採集経験はない。仕事での学会出張の折にもアメリカへはネットをもって行かなかったもので、これはやむを得ないか。

6) ヨーロッパには学会出張の折、ネットを持参したが、いずれも採集時期ではなかった。

主として、スペイン・ハンガリー産は、虫友との交換品である。アフリカ・エジプトでは、ピラミッドを背にして、ラクダの背中からチョウセンシロチョウ（多分）を目撃したのみであり、採集経験はないので納得できる。

7) 日本産に限らず、基本的には自分で成虫を採集して、自分で展翅することに少しばかりこだわって来たので、1万3千頭以上を採集し、展翅したことになる。また、外国産はもちろんのこと、金沢に来てから（1976年）日本産も採集シーズン中の生展翅を行っていないので、1万頭以上を軟化展翅したことになる。この中には、20年以上も前の松井氏採集の沖縄県のシジミ、セセリ（約40頭）や細沼氏採集のホリイコシジミ、カラフトセセリ（約70頭）も含まれる。ちなみにまともな状態で三角紙に入っていれば、軟化展翅失敗は、これまで皆無であります。

《さしだはるき 〒920-0931 金沢市兼六元町11-27》

石川県白山麓で10月に観察したチョウ

松 井 正 人

好天に恵まれた10月18日、白山麓でノコンギクやミゾソバに訪花する各種のチョウを観察した。この時期、成虫越冬できないミドリヒョウモンなど旧来のヒョウモン類は、ヨレヨレになりながらもどうにか飛んでいるのが常であったが、この日はピカピカのツマグロヒョウモンがヨレヨレの旧来組に交ざって颯爽と訪花しているのが印象的であった。林縁のノコンギクには、メスグロヒョウモンやスジボソヤマキチョウも飛来していた。

■2008年10月18日10時40分～13時00分（快晴） 石川県白山市神子清水 松井正人 観察

ツマグロヒョウモン	4♂2♀	スジボソヤマキチョウ	5♂1♀
ミドリヒョウモン	1♂5♀	モンシロチョウ	2頭
メスグロヒョウモン	1♂1♀	モンキチョウ	1♂1♀
オオウラギンスジヒョウモン	1♂2♀	キチョウ	多数
アカタテハ	1頭	ウラナミシジミ	多数
キタテハ	4頭	ベニシジミ	1頭
コミスジ	1頭	ヤマトシジミ	1頭
テングチョウ	1頭	ウラギンシジミ	2♂

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県白山市でエダナナフシを観察

松 井 正 人

石川県では観察例が少ないエダナナフシを、白山市吉野で観察したので報告する。当日は晴天で、日当たりにいると暑く感じたが、刈り取りが終わった水田脇に繁茂する日当たりの良いクズの葉上で観察した。



2008年10月18日 石川県白山市吉野 エダナナフシ 1♀ 松井正人

《まつい まさと〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2008年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額 (円)	項 目	金額 (円)
2008年度会費	100,000	会 誌 作 成 費	151,200
当該年度以外会費	32,000	例 会 費	16,000
会 誌 売 上 金	26,600	石川県自然史センター会費	3,000
郵 送 負 担 金	21,080	郵 送 費	28,280
寄 付 金	5,600	消 耗 品 費	5,785
前 年 度 繰 越 金	143,187	次 年 度 繰 越 金	124,202
計	328,467	計	328,467

年会費は2,000円、郵送負担金は500円

会員の動き・しゃばの動き

■日吉氏、標本1万頭を達成

常に正確な標本数を把握している日吉氏、2005年の年頭に標本1万頭を宣言した。宣言時の保有数は6563頭で、11月19日に展翅した2008年の1158頭目が1万頭目となった。

■かくも悲惨な状態に

池にザリガニが侵入するとどうなるか。バス駆除をした時もザリガニが増え、同様の現象が起きる。水草が切り刻まれ悲惨な池へと変わり果ててしまう驚異や、ザリガニ退治の効果と現状について、ザリガニネットの研修会が開かれた。

■クロメンガタスズメの一時発生

大津の諸道特派員、大津市内で発生したクロメンガタスズメとおぼしき蛾を飼育中。今年は太平洋岸各地で成虫が観察されているので、迷蛾の一時発生と思われる。

■在来種ならいいの？

温室トマトの受粉に使われているセイヨウオオマルハナバチが野生化し、問題化している。そこで在来種のマルハナバチの1種に目をつけられたが、国外に持ち出され工場で強い個体を選抜し、大量繁殖させられて日本に戻ってくる頃には、世界中の寄生虫や菌を身にまとっているだろう。

■「石ひよし」中国本土で再捕獲

輪島でマーキングされたアサギマダラが、上海の近くで再捕獲されていた。浙江省平湖市九龍山で再捕獲されていたもので、日本から中国本土への移動が、初めて確認されたが、何せ大陸の事、2年前の再捕獲情報がようやく伝わってきた。

■ナガサキアゲハの北上は

2007年に新潟県で初観察されたナガサキアゲハ、福井県の若狭湾周辺に定着してから15年程経つが、一向に北上する気配がない。太平洋側では、千葉や埼玉まで達し茨城でも度々観察されているが、日本海側は冬期間に吹き付ける強烈な季節風に阻まれ、北上できないのかもしれない。

■モルフォ華飾

モルフォの構造色を再現する糸、モルフォテックスの話をしたことがあるが、今度はプラスチックに応用された。構造色を発する三次元構造をナノサイズでプラスチックに加工する技術が確立され、自然界には存在しない構造色も作れるらしい。福光町に本社がある三光合成が開発した。

■身近な自然を利用して

珠洲市の外浦海岸にはアサギマダラがたくさん飛来し、ここを校区とする西部小学校の子供達がマーキングや幼虫の観察に取り組んだ。成果を発表し、同じ活動をしている出雲市の鰯淵小学校と交流するなど積極的で、来年は小学校全体の取り組みになるようだ。

■ツマグロヒョウモン前線

ツマグロヒョウモンが石川県に定着したと考えられる1999年から10年が経過した。南北に長い石川県、現在どこまで北上しているのだろうか。新潟県柏崎市では越冬の完了が観察されているが、柏崎の緯度は輪島に近い。小松もそうだったが、柏崎でも庭のスマレから幼虫が見つかった。

■指田氏復活か

ないない 3 拍子と騒がれ虫界から遠ざかっていた指田氏、所蔵している膨大な標本を年頭から眺め始め、3 拍子の一角が崩れた。これは復活の兆しかもしれない。

■満身創痍のトゲナナフシ

暖かな日和に誘われ、正月休みの最後にトゲナナ探しに出かけた松井氏、華麗なる 6 本足が無残な 3 本足になり、かろうじて水路の壁に張り付いている 1 ♀を発見。

■西原昇吾著：よみがえれゲンゴロウの里

ため池や水田など水辺環境の悪化の中、必死に生きるゲンゴロウを守ろうと、ゲンゴロウにとりつかれた男が仲間とともに取り組んできた数々の活動が、ゲンゴロウの生態とともに熱く語られている。

A 4 版カラー48頁、定価3,045円。童心社。

■西岡信靖著：日本産蝶類「飼育の実際」

日本産蝶類88種の飼育技術が満載された飼育のバイブル。母蝶採集から羽化に至るまでのすべてについて、経験にもとづき「楽に」「大きく」「歩留まりよく」育てる技術が紹介されている。B 5 版カラー120頁、

手印刷。定価3,000円、送料290円。

申し込みは著者へ連絡

〒557-0045 大阪市西成区玉出2-10-22-608

■ 例 会 の 記 録 ■

12月11日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、福井の山岸氏の紹介で、折り紙師山本勝博氏の特別出席が叶った。氏の折り紙には昆虫も多く、虫屋が見てもリアルで、実際の動きそのままに折り紙が動くのには驚いてしまった。虫が好きで、虫の体がどのように作られ、どのように動くのかを理解し、そのままを折り紙に再現している。加賀市の日本折紙博物館（御菓子城加賀藩2階）に作品が展示されている。

その他の話題は、中国本土で初観察されたアサギは日吉マーク、名古屋に進出したクマソシジミ、益田市のヒロシマサナエ、これがコガネムシ上科図説の普及版、12月はトゲナナ調査、などなど。

参加は、長田、浅地、浅野、細沼、山岸、松井、大宮、山本（特別出席）の8人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

松井正人：2005年石川県のアサギマダラマーキング概要	1
指田春喜：Sashida Collection は全部で何頭あるのか？～日吉さんはスゴイ！～	5
松井正人：石川県白山麓で10月に観察したチョウ	7
松井正人：石川県白山市でエダナナフシを観察	8
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔 196 号

Tobu 2009年2月10日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印 刷 小西紙店印刷所

